

# Asia Indicators

発表日: 2021年5月21日(金)

## 香港経済も新型コロナ禍の影響を克服(Asia Weekly(5/14~5/21))

～台湾の輸出受注は世界的な供給不足が続く半導体を中心に旺盛な推移が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/14(金)	( <a href="#">香港</a> )1-3月実質 GDP(前年比・改定値)	+7.9%	+7.8%	+7.8%*
5/17(月)	(中国)4月鉱工業生産(前年比)	+9.8%	+9.8%	+14.1%
	4月小売売上高(前年比)	+17.7%	+24.9%	+34.2%
	4月固定資産投資(年初来前年比)	+19.9%	+19.0%	+25.6%
	(タイ)1-3月実質 GDP(前年比)	▲2.6%	▲3.3%	▲4.2%
	( <a href="#">フィリピン</a> )3月海外送金(前年比)	+4.9%	--	+5.0%
5/20(木)	( <a href="#">インドネシア</a> )4月輸出(前年比)	+51.94%	+41.00%	+30.47%
	4月輸入(前年比)	+29.93%	+29.81%	+25.73%
	( <a href="#">台湾</a> )4月輸出受注(前年比)	+42.6%	+32.6%	+33.3%
	( <a href="#">香港</a> )4月失業率(季調済)	6.4%	--	6.8%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。\*は速報値

### [香港]～中国本土をはじめ世界経済の回復に加え、感染一服も重なり香港経済も新型コロナ禍の影響を克服～

14日に発表された1-3月の実質GDP成長率(改定値)は前年同期比+7.9%となり、今月初めに発表された速報値(同+7.8%)から+0.1pt上方修正された。前期比年率ベースの成長率も+23.53%と速報値(同+22.95%)から拡大ペースがわずかに上方修正されており、3四半期連続のプラス成長となるとともに、中期的な基調も7四半期ぶりのプラス成長に転じるなど底入れの動きを強めている。中国本土経済のほか、欧米など主要国における景気回復を背景とする世界経済の底入れを追い風に財輸出が大きく押し上げられているほか、中国本土における新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染収束を受けた域内移動の活発化を反映してサービス輸出も底入れするなど、外需を取り巻く状況は大きく改善している。さらに、感染一服を受けた経済活動の正常化の動きを受けて家計消費も底打ちしている上、政府による財政出動を通じた景気下支え策を反映して政府消費も押し上げられるなか、企業部門による設備投資意欲の改善を受けて固定資本投資も拡大傾向を強めるなど、幅広く内需も底入れしている。結果、実質GDPの水準は新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)の影響が出る直前の一昨年末と比較して+2.6%程度上回るなど、香港経済はその影響を克服したと捉えられる。

20日に発表された4月の失業率(季調済)は6.4%となり、前月(6.8%)から0.4pt改善した。失業者数は前年同月比+4.5万人と前月(同+9.8万人)から拡大ペースが鈍化しており、一段と頭打ちの動きを強めている。一方の雇用者数も前年同月比▲3.5万人と減少傾向が続いているものの、前月(同▲

10.6 万人) からペースは大きく鈍化するなど底入れしている上、不完全雇用者数も同+0.8 万人と前月 (同+6.6 万人) から拡大ペースが大きく鈍化するなど改善傾向を強めている。中国本土での新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の感染収束を受けて人の移動が活発化していることを反映して、低迷が続いた小売、宿泊、飲食関連といった観光関連で雇用が改善しているほか、建設需要の堅調さを反映して建設業でも改善の動きがみられるなど、幅広い分野で雇用環境が底入れしている。

図 1 HK 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移

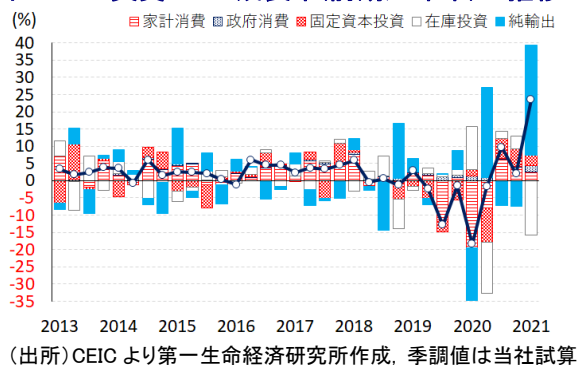
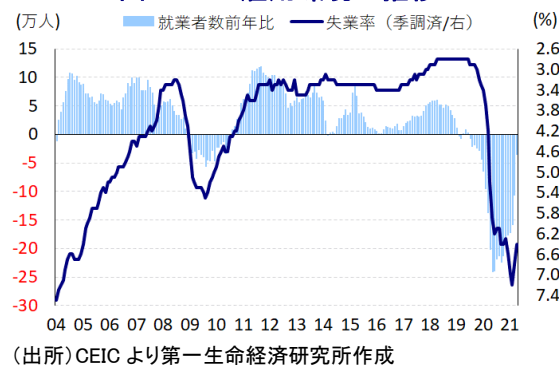


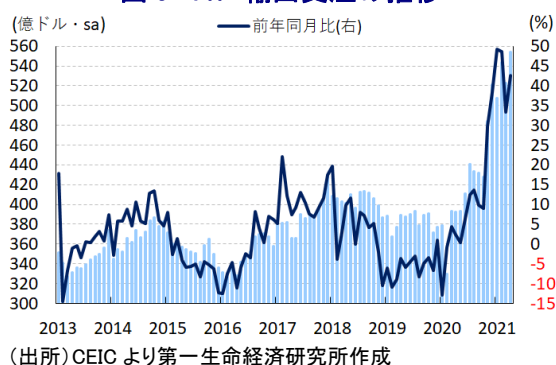
図 2 HK 雇用環境の推移



### [台湾]~主力の輸出財である半導体など電子部品関連を中心に輸出受注は引き続き底堅い動きが続く~

20 日に発表された 4 月の輸出受注額は前年同月比+42.6%となり、前月 (同+33.3%) から伸びが加速した。前月比も+5.97%と前月 (同▲3.92%) から 2 ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが進んでいる。財別では、化学製品関連や縫製品関連で底入れの動きに一服感が出ているものの、主力の輸出財である半導体を巡って世界的な供給不足が続くなかで底堅い動きが続いているほか、こうした動きに関連して I T 関連財などでも堅調な動きがみられる。国・地域別でも、景気回復が続く中国本土向けや米国向けに加え、欧州向けで大きく押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、感染力の強い変異株による新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の感染再拡大の動きが広がる A S E A N (東南アジア諸国連合) などアジア新興国向けで底入れの動きが一服するなど対照的な動きもみられる。

図 3 TW 輸出受注の推移

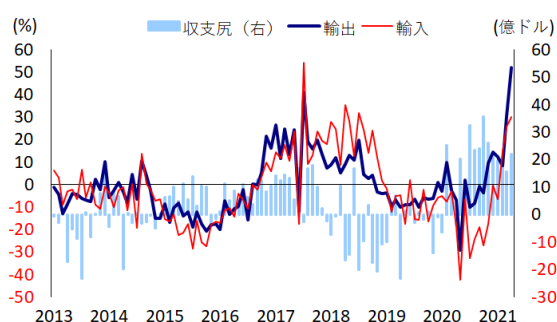


### [インドネシア]~国際商品市況の底堅さに加え、世界経済の回復の動きは輸出を押し上げる展開が続く~

20 日に発表された 4 月の輸出額は前年同月比+51.94%となり、前月 (同+30.47%) から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も 3 ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡

大傾向を強めるなど底入れの動きが進んでいる。国際原油価格の堅調な動きを反映して原油及び天然ガス関連の輸出が堅調な推移をみせているほか、その他の鉱物資源関連に加えて、製造業関連や農産品関連など幅広い分野で輸出は底堅い動きが続いている。主要国を中心とする世界経済の回復の動きが追い風になっているとみられる。一方の輸入額も前年同月比+29.93%となり、前月（同+25.73%）から伸びが加速している。ただし、前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い展開が続いている。国際原油価格の底堅さが続いているものの、原油及び天然ガス関連の輸入底入れの動きに一服感が出ている一方、電気機械関連など消費財を中心に底堅い動きがみられるにも拘らず、鉄鋼製品などの輸入に下押し圧力が掛かるなど中間財や資本財で鈍化する動きがみられる。結果、貿易収支は+21.94億ドルと前月（+15.67億ドル）から黒字幅が拡大している。

図4 ID 貿易動向の推移

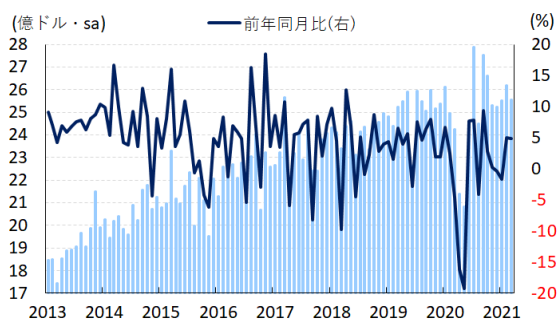


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

### 【フィリピン】～原油高を追い風に中東からの移民送金は堅調も、主要国からの鈍化が重石となる動きが続く～

17日に発表された3月の海外移民労働者による送金流入額は前年同月比+4.9%となり、前月（同+5.0%）からわずかに伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きに一服感が出ている。当月は国際金融市場において通貨ペソ相場が調整するなど、ペソ建てで換算した海外送金に押し上げ圧力が掛かりやすい環境であるにも拘らず、米ドル建ての送金額の調整はその効果を相殺しており、家計消費など内需の足かせとなることが懸念される。国際原油価格が底入れの動きを強めるなかで全体の3割弱を占める中東からの流入は底堅い動きをみせる一方、全体の3分の1を占める米国からの流入に一服感が出ているほか、アジアや欧州からの流入に鈍化する動きがみられるなど、一進一退の展開が続いている様子がうかがえる。

図5 PH 海外送金の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成、季調値は当社試算

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。